

## 答辞

今日は、私たち卒業生のためにこのような素晴らしい式典を挙げて下さり、誠にありがとうございます。ご多忙にもかかわらずご出席くださった皆様に、卒業生一同心よりお礼申し上げます。

入学からの6年間を振り返りますと、私たちは様々なかけがえのない体験をして参りました。

日々の勉強や課外活動、学校行事はもちろんのこと、在学中に先生方から教えていただいたこと、そして友人と過ごす中で得たことは計り知れず、私たちの今後の人生における貴重な財産です。

素晴らしい先生方や友人たちとこのような時間を共有できたことは、在学中は当たり前のように感じておりましたが、今振り返ると懐かしい思い出です。逗子開成で過ごした時間は自分自身の人生にとって欠くことのできない1ページであったということに、疑いの余地はありません。

そして、いざ卒業となりますと、将来への第一歩を踏み出す希望を抱くと共に、一抹の寂しさを感じます。

私は部活動では、高校から陸上部に所属しました。3年間の活動の中で、特に思い出に残っているのが駅伝の県大会です。この大会に向けては、走力のみならず、多くの部員の価値観の共有、目標の統一、意思の疎通といった難題が常に存在しました。しかし、困難の中でも陸上部の顧問の先生やメンバーと意見を交わしたりしながら、目標を達成するために努力を重ねる中で多くの教訓を得ました。目の前の現実に全力で取り組む経験は他では得難いものでした。こうして苦楽を共にしてきたメンバーと共に一本の襷を繋ぐことが出来た経験はかけがえのない思い出です。

そして、逗子開成での楽しく充実した生活は、先生方への御恩抜きには語れません。先生方はいつも私たちのことを第一に考え、時に厳しく、時に優しく私たちを導いてくださいました。とりわけ私たちの学年の先生方は、私たちの学年の事を“本番に強い”と幾度となくおっしゃっていました。いかなる時でも私たちのことを信じ、応援してくださった先生方の中で、6年間を過ごすことができ感謝の気持ちでいっぱいです。今まで本当にありがとうございました。

また、こんなにも充実した生活ができた今の自分があるのは、何よりも両親の支えがあったからです。いつも見守っていてくれているという安心感があったからこそ、私たちは

自分たちの信じた道を進んでいくことが出来ました。結果が出れば共に喜び、うまくいかなかった時は、時に共に悩み、またある時は気持ちをぶつけ合うこともありました。これらは全て私たちの為にしてくれていた事が今は分かります。両親には、感謝の気持ちで一杯です。

高校2年生の皆さん。4月からは高校3年生です。この後は逗子開成生活最後の行事である体育祭や部活の引退、そして受験へと向かっていくわけです。とにかく一瞬一瞬を大切にしてください。皆さんが思っているよりも早く高3は過ぎ去っていきます。後ろを振り返らず、前だけ向いて自分の信じた道を走り抜けてください。私たちから願いを込めて、襷を渡したいと思います。

未来へ目を向けてみますと、2020年には東京オリンピックが開催されます。私たちと同世代の若きオリンピックたちが、たくさん活躍してくれることでしょう。一方でオリンピックは、「平和の祭典」であることを忘れてはいけません。未だ世界各地で紛争が絶えない世の中で、国境を超え宗教を超えスポーツをフェアに楽しめるオリンピックの開催意義は、これからのグローバルな世の中を生きていく上で、深く心に留めておくべきではないでしょうか。

逗子開成での6年間は、私たちにたくさんの実り豊かな出逢いを授けてくれました。そんな一つ一つの素晴らしい出逢いを、どのように今後の人生に活かしていくか。それを模索していくことが、私たち卒業生に与えられる大きな使命となるでしょう。また、この逗子開成で学んだことを誇りに思い、ここで受けた恵みを、自分たちの人生だけでなく、より広く社会へと還元していく責任を強く自覚しなくてはなりません。これまでの成功体験を自信とし、失敗は教訓として学び、これからの糧としていきます。今後、より良い未来を切り拓いていけるように、更なる努力をすることを、ここに決意致します。

最後になりますが、未熟な私たちにご指導くださった先生方、様々な場面で私たちを支えて下さった職員の皆様に、改めてお礼申し上げますとともに、高校卒業を迎えた今日まで私たちの成長を見守り続けてくれた家族に感謝します。そして、逗子開成の一層の発展を願い、答辞とさせていただきます。

平成29年3月1日 卒業生代表 熊澤 学